

「スマホの危険。デートDV被害に遭わないために」に関する  
アンケート調査結果報告書

平成28年3月

生野区地域福祉アクションプランデートDV防止推進チーム



## はじめに

「デートDV」とは、交際中の若いカップルの間で起こる暴力（身体的・精神的なものの双方を含む）のことをいいます。生野区役所・生野区社会福祉協議会が合同事務局を務める生野区地域福祉アクションプランには「デートDV防止推進チーム」があり、デートDV被害の広がり・深刻さを背景に、前身の「女性部会」からおよそ10年に渡って啓発活動や講座などを積み重ねてきました。

こうした問題を大人だけで考えるのではなく、当事者世代である高校生自身が考え、発信し、対話する企画として「デートDV被害に遭わないためにー高校生からの発信ー」が、平成27年11月29日（日）、平成28年2月7日（日）に開催されました。

そこでは、昨年度に引き続き十代の若者が『デートDVに関する意識調査』としてアンケートを作成したものをもとに、調査依頼をおこない、多くの中学生、高校生から回答をいただくことができました。アンケートにご協力いただきました皆さま誠にありがとうございました。

アンケート結果については竹内和雄先生（兵庫県立大学准教授）に分析をおこなっていただきました。

皆さまからお寄せいただいたアンケートはデートDVに関する予防・啓発など今後の活動に役立ててまいります。引き続き一層のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

平成28年3月

生野区地域福祉アクションプラン推進委員会

デートDV防止推進チーム

## アンケート調査の概要

### ○期間

平成27年7月1日（水）～平成27年10月30日（金）

### ○ご協力いただいた方

大阪府内の中学生、高校生991名（8校）（有効回答）

男子：355名 女子：636名

### ○分析

兵庫県立大学竹内研究室

### ○集計

生野区社会福祉協議会

### ○質問項目

高校生が作成（別紙のとおり）

デートDV被害に遭わないためにー高校生からの発信ー

## ワークショップ開催！！

日時：平成27年11月29日(日曜日)午後1時30分から

場所：在宅サービスセンター「おかちやま」

昨年度、高校を卒業した大学生ら2人と、大阪府立勝山高校の生徒5人でワークショップを開催しました。

デートDVに関するアンケート2015の結果をもとに、どのようなことがデートDVにあてはまるのか、どうしたらデートDV被害を防ぐことができるのかなど活発な意見がたくさんでました。



デート DV 被害に遭わないためにー高校生からの発信ー

## アンケート結果発表！！

日時：平成28年2月7日(日曜日)午後1時30分から

場所：在宅サービスセンター「おかちやま」

司会・報告者として並んだのは、昨年度、高校を卒業した大学生ら2人と、大阪府立勝山高校の生徒6人。はつらつとした進行で報告会がスタートしました。



まずは、高校生たちが自ら作成に携わったデート DV に関するアンケート結果の報告。大阪府内の中学生・高校生たち合計1006人の声を集めて「デート DV の認知度」「経験の有無」「相談先の意識」などを調査しました。「あなたはデート DV を知っていますか？」という問いでは、「知っている」と回答したのが、高校生女子では約7割、男子は約5割。中学生では女子が約5割、男子が約3割という結果でした。

こうした結果からも、デート DV は、決して一部の人たちの問題ではなく、さらには、男女ともに加害者にも被害者にもなっている状況が明らかになりました。

その後、フロアの参加者も一体となったトークセッションへ。ここからは、生徒指導論を専門とする兵庫県立大学の竹内和雄准教授が進行を務めます。



「デートDVのことは何歳ぐらいから知っておくべき?」「自分なら誰に相談する?」といった問いに対して、高校生たちの率直な思いが話されます。それを受けて、教員・保護者たちを含むフロアの大人たちとの意見交換が繰り広げられました。

終盤、高校生たちがこれまで検討してきた「デートDVの解決・改善方法」を披露。「教育」により、デートDVに「気づき」「気づかせる」こと、それでも解決しない場合は「相談」につなげることが重要ではないかと報告されました。



また、昨年度高校を卒業した大学生が、ゲストスピーカーとして大阪府内の中学校でデートDVに関する講義をしたことについても報告があり、活動が徐々に広がっていることが共有されました。



最後のふりかえりでは、高校生たち自身から「映像でイメージを伝えられたら、身近に感じてもらえたり、気づいてもらいやすいのでは」「小さいことからコツコツと積み重ねていきたい」といった意見も。地道に歩み続けてきた取組みの意義をあらためて確認し、新たな展開を予感させる報告会となりました。

## デートDVに関するアンケート『これからのためのアンケート』

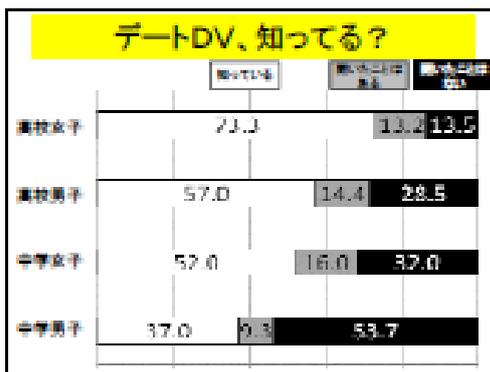
**デートDVアンケート2015**  
**1006人が回答！**

|    | 男子   | 女子   | 合計         |
|----|------|------|------------|
| 中学 | 55人  | 50人  | 105人       |
| 高校 | 300人 | 586人 | 886人       |
| 合計 | 355人 | 636人 | 991人(有効回答) |

2015年9月～11月(大阪府で実施)

**デートDV経験ある？**  
 暴言、暴力、LINEチェック、性的強要、お金要求

|             | 男子    | 女子            |
|-------------|-------|---------------|
| 1位 暴言       | 33.7% | 32.9%         |
| 2位 暴力       | 30.5% | 性的強要16.4%     |
| 3位 LINEチェック | 16.9% | LINEチェック13.8% |
| 4位 性的強要     | 12.4% | 暴力12.1%       |
| 5位 お金要求     | 10.8% | お金要求4.1%      |



**デートDV、イヤと言えないかも...**

|          | 男子    | 女子    |
|----------|-------|-------|
| 暴言       | 30.3% | 21.9% |
| 暴力       | 23.7% | 17.1% |
| LINEチェック | 27.6% | 15.9% |
| 性的強要     | 29.6% | 15.6% |
| お金要求     | 23.7% | 12.3% |

**デートDV、相談できる？**  
 先生？家族？友達？警察？

|        | 男子    | 女子      |
|--------|-------|---------|
| 第1位 友達 | 46.3% | 友達79.1% |
| 第2位 家族 | 22.9% | 家族36.1% |
| 第3位 警察 | 9.4%  | 警察 5.0% |
| 第4位 先生 | 4.0%  | 先生 3.9% |

**性的な写真**  
 何度も頼まれたら.....

|    | 男子    | 女子    |
|----|-------|-------|
| 中学 | 7.4%  | 2.0%  |
| 高校 | 23.1% | 16.7% |

【報道関係】

毎日新聞に掲載されました

毎日新聞

2016年(平成28年)2月8日(月)

# デートDV男子3割受難

大阪の中高校生1000人調査

大阪府の高校生グループが府内の約1000人の中高生に「デートDV」に関する調査をしたところ、男子生徒の3割以上が「(彼女から)暴言や暴力を受けて傷ついた」経験があることが分かった。女子生徒が「(彼から)暴力を受けた」割合は12%で、男子の半分以下。実際相手に「暴言が嫌と言えない」割合も、男子(30%)が女子(22%)を上回った。

調査は昨年9～11月に書面で実施。府内の105人の中学生(男子55人、女子50人)、886人の高校生(男子300人、女子586人)が回答した。

男女ともに傷つけられた経験は暴

## 暴力は女子の倍「嫌と言えず」

言が最多。男子は暴力(31%)、無料通信アプリLINE(ライン)のチェック(17%)、女子は性行為の強要(16%)、ラインのチェック(16%)が続いた。

一方、暴力を嫌だと言えない男子は24%、女子は17%。「下着姿や裸の画像を求められると断れない」という高校生は男子が23%、女子が17%だった。

男子の場合、女子に「死ぬ」「デブ」と暴言を吐かれるが、好きなので別れられない「や」たたかかれて嫌だが男として我慢せざるを得ない」との答えがあった。女子は「ラインにある男友達の連絡先をすべて削除するように強要されて困る」などと悩んでいた。

デートDVドメスティックバイオレンス 交際の相手から、身体的もしくは精神的、性的な暴力を振るわれること。2013年のDV防止法改正で、保護命令の対象が配偶者や内縁関係から、同居中か同居していた恋人まで広がったが、親と暮らす中高生らへの法的救済はまだ整っていない。

生徒指導に詳しく、調査のアドバイスをした兵庫県立天の竹内和雄准教授は「見えを張って嫌といえない男子生徒の悩みがあるのかもしれない。教員にデートDVの被害を相談する生徒は少なく、実態がつかみにくい。学校で何らかの対策も必要になるだろう」と話している。

【水戸健一、国本愛】

平成28年2月8日（月）TBSニュース23で報道されました



平成28年2月9日（火）TBSあさチャンで報道されました

